

新しい 人材活用 プロシエリング

外部プロ人材 活用成功事例



(株)サーキュレーション
代表取締役 福田 悠

No.70 BIツールの有効活用・内製化に成功

プロシエリングとは、高い職能を持って複数企業で同時に活躍するプロフェッショナルを、経営課題に合わせて「雇用」ではなく「活用」という、新しい人材活用の手法です。2014年の設立以来、サーキュレーションには30,000名以上のプロが登録し、22,000件以上のプロジェクトで実績を上げてきました（2025年7月末時点）。プロジェクトは経営要素の強い案件が多く、新規事業の企画推進や、人事・広報等のミドルオフィス支援、さらにはIPO関連から中期経営計画の策定、CFOのシェアなども実行しています。

リアルタイムの情報で 意思決定力を高めたい

今回は、岐阜工業株式会社様（以下、同社）が、プロ人材とBusiness Intelligence Tool（企業内データの収集・統合・可視化を支援するプログラム＝以下「BIツール」）導入に伴うデータ整備プロジェクトに取り組んだ結果、データ整備から内製化トレーニングまで一貫したデータ整備に成功した際のプロシエリング活用事例をご紹介します。

同社は1973年5月に設立された従業員数約200名の企業で、トンネル工事における建設機械の開発・製造・販売などを手掛けています。「イノベーション（革新）とエボリューション（進化）を指針とし、自ら考え迅速に行動します」「創造する力を養い、情熱を持って困難な目標に挑戦し実現のために全力を尽くします」「長期的且つグローバルな見地に立った思考と行動で未来に希望をつなぎます」「自己研鑽を怠らず、ものづくりに誇りを持ち、社会に認められる良き企業人として誠実に行動します」という4つのバリュー（行動指針）を掲げ“未来につながる動脈づくり”を展開。トンネル用型枠の国内トップシェアを誇る業界地位を築き、日々「地図に残る仕事」に取り組んでいます。

課題 データが部門別に分散 整理・活用の知見が不足

業界全体でデータドリブな意思決定の重要性が高まるなかで、同社においても経営判断の高度化が求められていました。しかし、各部門が個別にデータを管理し、Excelベースの手作業による資料作成を行っていたため、会議資料ごとに数値の不整合が起き、リア

ルタイムな情報共有ができないといった課題を抱えていました。同社では約1年前からBIツールを導入していましたが、社内にデータ整理や活用に関する知見がなく、具体的な運用ができていない状況でした。「社内で自走的にデータ活用を進められる体制と文化」を目指していたものの、社内のリソースだけでは限界がありました。

そのような状況下、必要な時に専門性の高い人材を雇用せず活用できる「プロシエリング」に出会いました。

解決策 ダッシュボードを制作 環境整備と研修を展開

サーキュレーションからはプロ人材のご紹介とともに「BIツール導入に伴うデータ整備」という解決策をご提案しました。

今回ご紹介したプロ人材の村山敏也氏は、BIアナリストとして、ダッシュボード設計・改善提案を、BIエンジニアとしてクラウドアーキテクト設計、Big Query/SQLによるデータパイプライン構築等を推進してきました。事業計画支援、PM/PMOとしての上流工程から、企業研修講師による内製化支援まで、技術力とビジネス知見を両立し、企業のデータ活

■福田 悠

中央大学理工学部を卒業後、インテリジェンス(現パーソルキャリア)へ入社。製造業を中心とした約600社の人材採用を支援。大手法人顧客専門部門を経て、同社初となる社内ベンチャーの立ち上げに携わる。2014年、サーキュレーションの創業に参画。中小企業や製造業大手顧客を担当しながら、地方金融機関とのアライアンス、地方7拠点的設立を主導。2023年4月より代表取締役社長に就任。

■株式会社サーキュレーション

本社：東京都渋谷区神宮前 3-21-5 サーキュレーションビル ForPro
TEL：03-6256-0467 URL：https://circu.co.jp/

用など全方位的にフォローが可能
なプロ人材です。

●現状把握

まずは、当時社内に散在していた各組織のデータを把握・整理し、BIツールで扱える状態にするための環境整備から着手しました。

●ダッシュボード制作

次に、経営判断に直結する分析ダッシュボードの設計・制作を実施。会社としては、プロ人材である村山氏に終始一貫してお任せするのではなく、制作工程そのものを社員たちと共有し、「データの見方」や「ツールの機能」をレクチャーしてもらいながら進めました。

●内製化に向けたトレーニング

同社が社内人材だけで運用できるよう、実践的な研修を実施しました。単なる操作説明にとどまらず、宿題やテストを交えたフォローアップを行い、チームの理解度や状況を見ながら、適切な課題を提示して、社員たちの知識とスキルのレベルアップを図る内容で進めていただきました。

●内製化後のフォローアップ

チームの状況を見ながら、さらに課題を追加提示し、レベルを上げながら内製化まで進めていただきました。

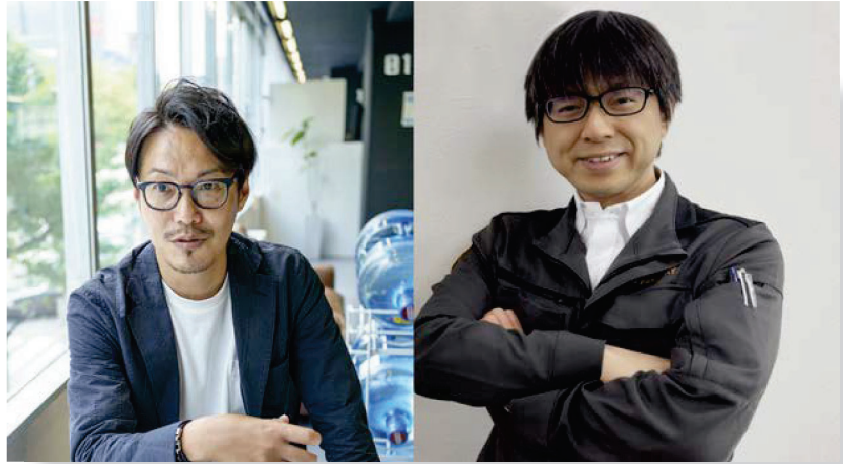
成果

ダッシュボードを実装し
活用スキルを内製化

同社はプロシエアリングの活用により、BIツール導入に伴うデ

成功事例

- No.65 採用強化プロジェクトの展開で応募者が3倍に
- No.66 従業員全員の想いがこもった企業理念が完成
- No.67 海外戦略策定と越境EC店舗開設を実現
- No.68 生産機械メーカーが6ヶ月で自社商品開発に成功
- No.69 新規事業アイデア制度を新設し、事業化へ始動
- No.70 BIツールの有効活用・内製化に成功



左：サーキュレーション コンサルタント 平澤 幸治

右：岐阜工業株式会社 経営企画部 IT チーム 担当課長 畔柳 安宏氏

ータ整備に着手し、データ整備から内製化トレーニングまで一貫したデータ整備に成功しました。プロジェクトを振り返って同社では具体的に以下の3つの成果を実感されています。

- ①経営判断に直結する分析ダッシュボードの設計・制作準備、および一部実制作を実施
- ②導入した分析ツールの持つ多様な機能や、データから価値を引き出すダッシュボードの制作に必要なスキルをレクチャー
- ③データ整備と内製化環境の構築が完了し、経営判断に資するダッシュボードの制作を進めることができる状態に

プロシエアリング×データドリブン・DXプロジェクトでの支援ポイント

自社の成長基盤を創るために、自社内で推進できる人材の確保に向けて社内異動や兼務アサイン・採

用活動を強化する方法がある一方で、実際に各分野での支援実績が豊富な人材に伴走してもらうことも非常に効果的だと感じられる事例です。また、社内メンバーの人脈以外でプロ人材を探す手段として、業務委託での支援を通じてアドバイザーになってもらう方法があります。雇用する場合と比較してミスマッチなどのリスクを低減できる点も有効な手段となりえます。

分散するデータを一元管理し、経営の意思決定を支援するBIツールの設計・運用などDXを担い、内製化まで指導できる人材というのは、実際に採用するとなると非常に希少価値が高く、採用も長期化する可能性があります。加えてその経験の高さから、給与も高い傾向にあります。そのような人材を採用したいという要望があった場合はプロシエアリングの活用を検討・提案してみてもいいでしょうか。